

平成 29 年度もあと少しでおしまいです。

桜の花も近いうちに咲きそうな陽気だったのに、またまた大雪。

身体がびっくりしています。

●手書き班 報告

今年度の 通常の練習以外の出来事を 担当の皆さんに振り返っていただきました。

○6月7日・11月15日 国語の勉強会

○8月2日 難聴者との交流会 美術館めぐり①

○9月6日 ろう者との手話交流会

○10月4日 難聴者との交流会 美術館めぐり②

○12月6日 難聴者とのクリスマス会

○(H30年)

2月7日・2月21日 漢字のゲーム



◆平成 29 年度の学習会を担当して◆

手書き班

29 年度も国語の学習として先生をお招きしました。

毎年 2 回来ていただき、漢字テスト・社説を要約・国語のテストなど、先生の用意してくれた問題に四苦八苦しながら挑戦しました。

今年は 1 回を短歌入門として、短歌の基礎を教えていただきました。塩尻での短歌の歴史や短歌を鑑賞しました。短歌の作り方を教えていただき、数人が短歌を作り見ていただきました。みなさんも短歌フォーラムに挑戦してみませんか。今年のお題は「テレビ」です。

今年度、少し変わった試みとして 頭の体操ならぬ、硬くなった頭に刺激をあたえようと漢字パズルや漢字ゲームを行いました。これはとても盛り上がりました。

個々に漢字パズルに挑戦したり、偏とつくりがバラバラになったカードでいくつ漢字ができるか競争したり、漢字オセロをチーム対抗でやりました。難しい漢字を読みながらオセロのコマを置いていくというものです。来年度もできたらやりたいと思っています。



◆交流会 美術館巡り① 浮世絵博物館◆

手書き班

8月2日、今年度の美術館巡り第一弾として松本市の浮世絵博物館に行きました。難聴者の方3名が参加してくださいました。車に分乗して目的地へ。車中でもノートテイクを使いながら話に花が咲きました。

浮世絵博物館では、まず浮世絵の作成過程の映像を見ました。字幕がついていなかったの、私はノートテイクで伝え、「ああ、そうだ、そうだ。」「これは知ってる。」と興味津々で反応してくださいました。その後、それぞれで展示の見学をしました。

ランチは、島内の「ショコラン」というフレンチのお店へ。2種類のランチメニューから各自好きなものをいただきました。味はもちろんおいしかったです、「ショコラン」がアラビア語で「ありがとう。」という意味なんだと分かったりしてみんなで盛り上がりました。

楽しい一日でした。今度は、浮世絵博物館に隣接している「松本歴史の里」にも行ってみたいねという話も出ました。

来年度も、たくさんの方の参加があると嬉しいなと思います。



◆指1本で表せる手話◆

手書き班

手書き班では、年1回、ろう者との交流会をしています。昨年は指1本で表せる手話、今年は指2本で表せる手話を学びました。

やり方は

- ① ろう者と健聴者が一緒に2～3人のグループを作る。
- ② 1本で表せる手話を考える。手は片手でも両手でもよいが、両手の場合も、左手・右手どちらも指1本のみ。
- ③ 発表してもらい、紙に書いて、ホワイトボードに貼る。
- ④ 貼られた紙の中から言葉を選んで、グループごとにビンゴの用紙に書き込む。
- ⑤ 貼った紙をはずし、カードにして1枚ずつ引き、自分のグループのビンゴ用紙にその言葉があったら○をする。
- ⑥ ビンゴになったグループの勝ち。賞品ゲット。

ちなみに今年の賞品は、我が家の畑で採れたジャガイモやゴーヤでした。

去年は、指 1 本で表せる手話なんてそんなにたくさん思いつかないのではないかと、もし出てこなかったら「こんなもありますよ」というつもりで、手話辞典で下調べをして行ったのですが、出るわ、出るわ、次々出てきて、用意していた紙も足りなくなり、ホワイトボードもたちまちいっぱいになりました。

指 1 本の手話で、まず出たのが「おしっこ」 うん、確かに。

参加してくれたろう者も、楽しんでくれました。今年は、やり方もわかっていたので、和気あいあいとできました。

指 1 本 又は 2 本で表せる手話の多さや、指の位置（頬に当てる、顎に当てる）や動かし方でたくさんの言葉が表されることに驚きました。

難聴の方々の中には、簡単な手話を覚えて使いたいという声もあり、難聴者のために手話教室も開かれています。私たち要約筆記者も覚えられたらいいですね。



◆交流会 美術館巡り② 原田泰治美術館◆

手書き班

10月4日、今年度の美術館巡り第二弾として諏訪市の原田泰治美術館に行きました。3名の難聴者の方が参加してくださいました。

まずは、腹ごしらえから。100年を超える古民家を改装した 諏訪の味噌蔵『丸高』で味噌汁御膳をいただきました。さすが味噌屋さんだけあって、お味噌汁がとってもおいしかったです。みんなで「ご飯とお味噌汁という こういう食事がおいしいね。」と言いながら、御膳をいただきました。丸高では、みんな た〜くさんのお土産を購入しました。

食事をすませて、原田泰治美術館へ。原田さんの日本の原風景の絵に心が癒されました。ちょうど絵画キルト展をやっていて、原田さんの絵をキルトで表現した作品がたくさん並んでいました。とても細かいもの、毛糸など布以外の素材を使ったものなど バラエティー豊かでした。原画は同じなのに、キルト作品はまた違った雰囲気になっているものもありました。

諏訪湖を一望できる喫茶室でお茶をしましたが、ノートテイクでとても会話が弾んだようでした。

来年は諏訪湖の水陸両用観光バスにも乗ってみたいね、などと言いながら帰ってきました。とても楽しい一日でした。





◆クリスマス交流会◆

手書き班

12月6日水曜日、ボランティア支援室にて行いました。

参加者 難聴者4名、サークル10名、その他今年の講座受講生も加わってくれました。

例年通りサンタ、トナカイの2チームに分かれ、

1、新聞紙ボール球入れ、新聞紙に風船を載せてのリレー。

童心に帰り、熱くなりました。

2、中身あて、感じて感じてゲームを行いました。

中身が本人に見えない箱に、ぬいぐるみや果物のおもちゃを入れ触ってもらいますが、何かわからないものを触るって気持ち悪いですね。

みているほうは大爆笑！

3、その後社協よりお借りしたゲームを楽しみ、もぐもぐタイム???、会食。

今年も助六寿司、ロールケーキ、たっぷりの差し入れで盛り上がりました。

ビンゴを途中にはさみ、あっという間の2時間でしたが、難聴者のみなさんと楽しく交流ができました。

今年はパソコン班からも2名出席してくれました。

来年も大勢ご参加お待ちしております。

みなさんの笑顔を楽しみにしています！

●パソコン班 報告

パソコン班では、嬉しいことに、久しぶりに新しいお仲間をお迎えしました！！
そこで、12月と2月には、連携入力の方法、前ロールの方法など、講習会をしていただき、私たち現役も、改めて技術を見直す良い機会となりました。

また、1月は教室で、お弁当とデザートやささやかな新年会！美味しく楽しく話も弾みました。



■会長より総括■

◆29 年度を振り返って◆

会長

先日の手書き班の例会で 今年度の活動を振り返りました。OHC やノートテイクの実技練習、国語の学習では短歌を作ったり、漢字ゲームもした。その他「合理的配慮」について資料の読み合わせも。ただ もう一步踏み込んだ話し合いができなかったので、今後に期待しましょう。パソコン班との共通課題にしてもいいかもしれませんね。

交流会の美術館見学や恒例のクリスマス会では、地元難聴者のなすなの会から参加していただき楽しいひとときを過ごすことができました。

手書き班もパソコン班も、会員が役割分担し工夫して それぞれ充実した活動ができたのではないのでしょうか。

楽しい時間の他に役員としては、関係団体との会議や各種申請手続き、書類提出、総会準備等、月 1.2 回の出席では済まない活動量になったことは否めません。

もう 30 年近く要約筆記に関わってきた私ですが、さすがにちょっと疲れてきました。マイペースを保持しつつもう少し…と思うのと、どうか皆さんもう一步踏み出してご協力いただけたらと思う今日この頃です。

リレーエッセイ

「私が要約筆記を始めたきっかけ」

パソコン班

息子が小学校だったころ、隣にあったろう学校とよく交流授業がありました。

親子調理実習で、ろう学校のお子さんと同じ班になり、とても楽しそうに笑いながら一緒に調理している息子たちを見て、ちゃんとコミュニケーションできるんだと思ったのを覚えています。

ろう学校では手話講習会も開催され、私も何度か参加しましたが、難しくて続きませんでした。

何年か前に、友人から要約筆記の話を聞き、長年ソフト開発の仕事をしてきたので、これならなんとかなるかもしれないと興味を持ちました。(実際には、仕事の経験は全く役に立ちませんでした…)

ちょうど親を 4 人介護中で、少ない自由になる時間を利用して長く続けていけることはないかと探していた時でしたので、2014 年に県の要約筆記者養成講座を受講しました。

その後、介護に時間を取られるようになり、勉強を中断してしまいましたが、最近

少しだけ自分の時間ができるようになったので、勉強を再開するためにペンペン草に入会いたしました。

県の講座で学ぶのは一人入力ですので、連携入力の経験がない私のために、12月と2月のパソコン班の学習会で講義をしてくださいました。連携入力の方法、特徴、利点、難しさなど、細かく説明して頂きましたが、やったことがない私には少し理解がついていかない部分もありました。その後、『しおじりボランティアの集い』に参加し、実際に連携入力をしているのをすぐ後ろで拝見し、お二人の入力している文とスクリーンに表示される文を見比べて、学習会でのお話の意味がよく理解できました。

これから、連携入力の練習頑張ります！ どうぞよろしくお願いいたします。

●リレーエッセイ

「マイブーム」

手書き班

マイブームというのはちょっとこじつけかもしれませんが(^)・・今 私が所属している団体で力を入れている「デイジー図書」について紹介をさせてください。

私は「NPO 法人グループ HIYOKO」という、おもにパソコン講座の企画・運営などを行っている NPO 法人に所属しています。

昨年からは HIYOKO では、デイジー教科書の製作に携わっています。

現在、私もその一員として、デイジー図書の普及やデイジー教科書の製作に力を注いでいます。

デイジー図書とは、視覚障害をはじめ様々な原因で通常の印刷物を読むことが困難な人のために開発されたデジタル録音図書の国際標準規格です。音声のみのもの、文字データのみのも、音声と文字に加えて画像も入ったものなどがあります。

音声と文字に画像も入ったものは、「マルチメディアデイジー図書」といい、これはパソコンやタブレット端末に専用ソフトをインストールして読みます。

マルチメディアデイジー図書は、音声とその部分の文字や画像等を同期させることによって、読み上げている部分の文字がハイライト表示されます。文字の大きさや色、行間、そして背景色やハイライトの色も変えることができるので、それぞれの見え方に合わせた表示をすることができます。

音声とともに文字がハイライトされ、自動的にページが次に進んでいくので、印刷物を読むのが困難な視覚障害者や、文字の読み書きが困難な（文字を文字として認識しづらい）学習障害者、紙の本のページを自分でめくりにくい肢体障害者の人にも利用しやすいものになっています。

もし皆さんの周りにデイジー図書を必要としている方がいれば、ぜひデイジー図書

を紹介してください。

HIYOKO では、デイジー教科書を PLEXTALK Producer（プレクストークプロデューサー）という専用の有料ソフトを使用して、製作しています。パソコンを通常使っている方なら、慣れればすぐに製作できるようになると思います。HIYOKO では製作者を募集中ですので、もし興味があってやってみたいという方は、ぜひお声をかけてください。

また、HIYOKO ではデイジー教科書の製作とともに、デイジー図書・デイジー教科書の普及にも励んでいます。

まずは「デイジー図書」を知っていただこうと、げんすけまつりやさくらフェスティバルなど、塩尻市のイベントなどでデイジー図書の体験をしてもらっています。

塩尻市の担当の方に、デイジー教科書のお話もさせてもらっています。

塩尻図書館にもデイジー図書を PR していただくよう働きかけています。

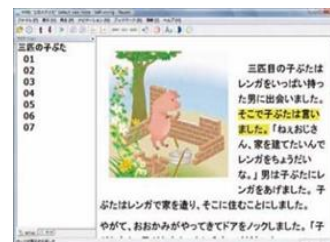
と同時に、塩尻図書館には、特別なニーズのある子どもたちを対象とした、デイジー図書をはじめとする 大活字本・さわる絵本・点字絵本などを置く『りんごの棚』というコーナーを設けていただくよう働きかけ、実現しました。

読むことに不自由を感じている方に、デイジー図書を利用して、読むバリアフリーを感じていただけたらと思い、活動しています。

【音声デイジー】



【マルチメディアデイジー】



《編集後記》

機関紙の作成を先延ばしにしまい、発行が年度終わり間際になってしまいました。

お許してください。人間だもの・・・（またまた登場(^)！）

ギリギリに皆さんに無理を言って原稿を書いていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

ご協力ありがとうございました。

ペンペン草会員の人数も減ったりして、これから原稿をお願いする回数も多くなることもあるかと思いますが、どうか今後もご協力ください。よろしくお願いします。